



環境保全型マルチを利用した レタス栽培

ポリエチレンフィルムを用いたマルチ栽培は、野菜の安定生産技術として普及定着しているが、その処理方法が大きな問題となっている。

そこで、環境保全型資材である生分解性マルチ、再生紙マルチについて、その特性を慣行の資材と比較検討したところ、慣行の資材と同等の栽培が可能であることを確認できた。

- 1 デンプンが主成分の生分解性マルチは、栽培終了後土中にすき込むと土壌微生物により水と二酸化炭素に分解される。
- 2 マルチとしての効果は慣行のポリエチレンフィルムと同等であり、レタス栽培において実用性が高かった。
- 3 実施に当たってのポイントとしては、生分解性マルチは種類によって耐久性が異なり、フィルムが破損しやすいものがある。そのため、破損しにくいものを使用する。



生分解性マルチを利用した年内どりレタス栽培 生分解性マルチを利用した2月どりレタス栽培

表1 年内どり作型におけるマルチ資材がレタスの品質、収量に及ぼす影響 (1997年)

供試資材	全重	球重	外葉数	最大葉		球高	球径
				葉長	葉幅		
生分解性マルチⅠ 「キエ丸」	g	g	枚	cm	cm	cm	cm
生分解性マルチⅡ 「ニューマルチ」	954	623	9.9	23.7	31.8	13.7	13.8
再生紙マルチ	971	708	9.3	22.5	30.0	13.7	13.6
ポリエチレン	842	448	12.2	22.7	32.5	12.0	13.3
	969	554	13.5	24.1	32.6	12.2	14.8

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 野菜園芸担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>